

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和6年5月17日（金曜日）			開会	10:58		会議場所		別海町議会 委員会室 1	
				閉会	12:35					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席	
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席	
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席				
委員外の出席	議長		西原 浩					合計	1 名	
事務局職員	局長		干場 富夫	主幹		木幡 友哉		合計	2 名	
傍聴者数	一般		0名	報道関係者		0名		合計	0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過
委員長 12番 松原	10:58 開会
	出席委員8名、欠席委員0名、委員外1名、会期1日
	開会挨拶
	議事1 調査事項の抽出について ・前回会議時に、各委員から意見があればタブレットで出すこととしていたが、意見はなかった。改めて意見を伺うのがいいか。 ・意見なし。 ・第1回目の委員会資料(4)に記載のとおりとしてよろしいか。 ①議員定数に関する事項について ②議員報酬に関わる事項について ③常任委員会の委員会数や名称、所管事項等に係る事項について ④その他議会活性化に資する事項として次の3つ (1)政務活動費について (2)議員のなり手不足に関する調査について (3)議会運営委員会の編成論議
委員 一同	
委員長 12番 松原	・大筋でこの3つ(上記(1)～(3))でいいと思うが、(2)の議員のなり手不足に関する調査が、結構幅広い問題だと思う。議会のPRの問題、広聴の仕組みも入るだろうし、報酬以外でもなり手不足対策になるのではないかと、幅広くなる可能性がある。
委員 9番 小椋	まずは大前提として定数と報酬をやらなければならないので、そこに集中しながら、各段階でこういう事項が（なり手不足に）関係してくるのではないかとといったように、内容的に多岐に渡る可能性があることは含みおいた方がいい。
委員長 12番 松原	議事2 定数・報酬等に関する最新資料について
主幹 木幡	・資料1（議員定数・議員報酬等に関する資料）、資料2（中標津町議会改革特別委員会に関する資料）により内容説明
委員長 12番 松原	質疑
委員 9番 小椋	・（資料2について）他町の話なのでそのまま使うことはできないが、大枠の流れについて、決める順番など参考になる。
	まず、別海町にとって、議会が活性化し、町民の声を町政に反映させるために、今後10年ぐらいのタイムスケールで考えた場合、何人が適正なのかを話し合うのがいいのでは。
	その話し合いをする上で資料収集や方法の判断をしていき、人数が決まったら、例えば、委員会構成と報酬を並行して進めていくといったような共通

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

			認識を持つといいかと思う。
委員	11番	今西	・まずは、基本的には議員の人数をどのくらいにするかということをおある程度調査して、ほぼ決定した中で次の段階にいけるといいかと思う。
			資料1にもあるように、別海町の場合、人口のほか、面積も十分に加味して議論していきたいと思っている。 同程度の人口でも面積は10分の1だとか、かなり幅広いので、調査の視点として共通に持って議論していければいいと思っている。
委員長	12番	松原	・定数に関わる事項について、各委員の案があれば。
委員	13番	中村	・考え方、道筋は小椋委員の案で概ねいいという感じもするが、議会活性化や町民のための議会として、我が町議会は委員会中心主義を取っている。
			特に常任委員会をどうするかを前提に考えていくことも大事かと思う。 どういう常任委員会の活動が必要なのかを議論して、それには何人の議員が必要である、といった道筋もあるだろうと考える。 どちらから先にやるかは結論付けなければならないので、基本的には小椋委員の言ったとおりでいいかと感じるが、常に常任委員会のあり方を念頭に置きながら議論することが重要と考えている。
副委員長	8番	田村	・10年後の別海町の人口がどうなっていくのかということを見据えた上で議論しなくてはならないということがひとつ。
			また、中村委員が言うとおり、委員会主義であることから、この委員会をどうしたら町民のためになるのかということも大事だと思うので、定数を決めることと並行しながら、常任委員会の活動をどうしていくかが見えないと進んで行かないと思うので、常任委員会だとか、将来人口などを含めて議論していくことを決めていった方がいいと思う。 なので、1番にこれ、次にこれ、ではなく、加減を見ながら進めるのも選択肢のひとつかと思うので、小椋委員と中村委員の案をミックスしたような形で進めていけるように、事務局と正副委員長で検討し、それをたたき台として進めていければと思っている。
委員長	12番	松原	・副委員長が言ったように、常任委員会と議員定数は関わりがあることから、これについて次回に案を提示して進めたいがよろしいか。
委員	9番	小椋	・定数を決めるためにも、まず委員会をどういった形でやっていくのかを議論した後に、それに最適な定数は何人かを決めて、具体的な委員会ごとに何人が必要だというのが決まってくるというような流れでよろしいか。
			委員会の話をした後に定数を決めて、最後に細かい委員会の構成を決めるといった大まかな流れということで。
委員長	12番	松原	・一度、委員会のあり方を深く協議していただいて、次に総体の定数の話に持っていかなければならないかと。
			いつまでも同じことを繰り返すわけにもいかないので、どこかで協議した後に次のステップに入るといったように考えている。
委員	9番	小椋	・今日、各委員に委員会活動について、将来的にこうだったらいい、こういうことをやったらいい、といった声を出しておいてもらえばそれを元に整理しやすいのでは。
			議論ではなく、こうすればもっと町民の声を反映できる、実行力のある委員会になる、と感じていることを聞くのがいいかと。
委員	13番	中村	・ざっくばらんな感想を言いましょうと？

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員長	12番	松原	・それでは中村委員から、常任委員会のあり方について考えていることを。 ・先に今西委員からも出たように、人口だけでなく面積も考慮したい。面積が広いということは、それだけ調整の仕事があるということ。 - 予算規模にも反映されている。町政がやらなければならないことの量は、基本的に面積が基になると思う。 - 所属の福祉医療常任委員会でもやらなければならないことが沢山あり、月1回の委員会では議論しきれない。逆に言うと議論が足りていないというのが率直な思い。 - 議論しきれなかった部分は一般質問で、という形もあり、実際そうしてはいるが、それでも足りないと感じる。 - 委員会の開催数を増やせばいいのかとも考えたりするが。
委員	13番	中村	
委員	9番	小椋	・1期目の時の委員会と比べて、最近の委員会は町の何かを変えなければいけないという思いが強くなってきており、昔は役場のやることのチェック、確認というのを強く感じたが、最近はそうではないので、今以上に範囲が広くなるとまとまりきらないという感触がある。 - なので、委員会の数が2つ、あるいは1つとなると実効性のある委員会主義というのを掲げることが難しくなると考える。 - また、議員数という面から考えると、別海町は広く、各地域代表という議員が多かったと思うが、地域自体が小さくなってきており、今後10年を考えた場合、なくなっていく地区もあるかもしれないことを考えると、それぞれの議員が様々な属性の中で委員会活動をして、委員会の中で意見交換会という仕組みもあるので、そこを発展させ町民の声を集めることもできる。 - 面積の広い別海町では、交通問題や過疎問題などの対策が必要になってくるといふ流れを考えると、委員会の数はある程度維持したまま、その場合、複数所属という負担は出るとは思うが、広報・広聴常任委員会だけではなく他の各常任委員会での広聴活動も必要と感じている。
委員	2番	吉田	・1年間活動した中で思ったのは、今の常任委員会の5人というのは、正副委員長以外で3人の意見しか出ないというのは人数が少ないと感じている。 - 人数がもう少し多いほうが多様な意見が出て議論が進むのではないかと強く感じるので、定数16名に委員会が3つは多いかと思う。 2つにして半数半数の方がいいかとも感じている。
委員	11番	今西	・1委員会5人が妥当かということもあるが、最近は各常任委員会の毎月の調査事項の内容を確認する機会が増えたと思っている。 - 所属していなくてもタブレットを開くことで他の委員会の調査内容を拾い集めることができる。そこを膨らませて上手に活用すると、委員会の構成人数の少なさもカバーできると思っているので、そういうのをもっと活用することが委員会構成人員などの解決の糸口のひとつとみている。 - 議員一人ひとりが他の委員会の活動内容にも取り組んでいくことで変わるかと思う。そうすることで議論も変わってくるかと思う。
委員	3番	高橋	・吉田委員と同じで、あともう少し人数が増えて議論が白熱したり、いろんな考えが出ればいいのかと考えていた。 - そうすると、委員会に複数所属する必要があると考えていたが、今西委員の意見もひとつの考えだと思った。
委員	1番	市川	・委員会主義であることがこの1年で分かった。委員会で政策を練ったり、

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

			問題を共有することが大事だと実感した。 タブレットで事前に資料が貰えるようになったことから、当日の発言の内容が変わってきたと最近思う。 だが、今はまだ経験値がないのもあって、5人だと1人欠席されると厳しいというのは正直ある。 今西委員が言ったように、そこをカバーする物は持っており、ICTを使いながらやっていく時代がくると思うが、それを考慮すると、今の5人×3委員会は妥当かと感じている。
委員	9番	小椋	・人数の話が出ているので。個人的には3委員会各5人は少ないと思う。 委員会の人数を増やして複数所属がいいと思っている。 ツールを駆使しても、病気などでいなくなる可能性もあり、4人の委員会となるリスクを考えると、最低でも7人くらいは必要かと個人的に思っている。
副委員長	8番	田村	・全国的に見ても1委員会の平均は6.9人ほど、1人が議事整理に回ると4人、1人が欠席したら3人。3人の意見で決まってしまうのは果たしてその所管事務調査の方向性になるのかと考える。 少なくとも7人ぐらいのメンバーは必要だと思う。 また、最初に年間通じての所管事務調査事件を決めているが、実際この1年やってきて、正直すべてを調査しきることができていない。月1回では時間が足りない。 所管から説明を聞いて、「はいわかりました」、「ここどうなっていますか」だけで終わって、それが将来の議決事項や町の大事な政策を決定するのに役立っているのかなと。 我々の委員会では、おせっかいかもしれないが、タブレットで次の委員会の調査ポイントを流している。 そうすることで当日の議論が活発になっていると見えているので、そういうことも含めながら、何をどういう目的で詰めるかをしっかり決め、ポイントを絞り、徹底的に突っ込むというのもありかと思う。 2年間の任期であれもこれもっていうのは、言葉では理解しているが、実感としては難しいと感じている。
委員長	12番	松原	・今出された意見をまとめ、たたき台として、次の委員会で協議していきたいと考えているが、よろしいか。
委員		一同	・意義なし。
委員長	12番	松原	議事3 日常議員活動調について
主幹		木幡	・資料3（日常議員活動調について）により内容説明 議員活動内容及び時間、議員活動に伴い発生した費用について、月ごとに提出してもらう様式となっている。 公費が支給される活動、政党活動、選挙活動、後援会活動、これら以外の議員としての活動を記載してもらう。 また、移動、拘束時間も含んで記載してもらう。 不明点があれば事務局に相談して欲しい。
委員	9番	小椋	・議会の出席は記載不要か。
主幹		木幡	・事務局で記載する。
委員	9番	小椋	・移動時間も事務局で加味していくということでもいいか。

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

主幹	木幡	・そうする。 ・例えば東京に出張に行ったついでに議員の先生方の事務所に顔を出して挨拶するとか、札幌に行ったら道庁の関係するであろう部署に挨拶をするとかそういった場合、現地の所要時間だけなのか、移動時間も按分して加算するのかを決めておかないといけないかと。 札幌に車で行った場合、移動時間を入れるのと入れないのでは相当時間にずれが生じる。
委員	9番 小椋	
主幹	木幡	・私事旅行の合間に時間があるので、ついでに現地を調査しようといった場合を想定しており、その場合は移動時間を含めないものとして考えていた。 各々が持たれている仕事での出張も私事旅行扱いかとは思っているが、協議して決定していただいても構わない。
委員	2番 吉田	
委員	11番 今西	・どちらがメインかで変わらと思う。議員活動の合間に私事が入る場合は、私事にかかる時間を除き、移動時間は含む。 反対に、私事旅行の合間に議員活動をする場合は、議員活動にかかる時間のみ（移動時間は含まない）が対象となるかと。
委員	9番 小椋	
副委員長	8番 田村	・まずは町内の議員活動をするというのが基本かと。 ・議員としてはそうだが、報酬（算定のため）の稼働時間という意味では、町外での活動も積算した方がいいと感じる。 報酬や議員のなり手不足に関する部分では、議員をやっていないかしていない活動に関しては書いておいた方がいいかなとは思う。
委員長	12番 松原	
委員	13番 中村	・例えば、任意団体の総会などは入らないけれど、その中で開催した研修会は、任意団体に関係なく、政界の情報を知るなどであれば、その時間だけをピックアップするといった整理でいいと思う。 また、議員として自分のまちを良くしていくためには、類似自治体や官公庁の意見を聞くことも必要な時があるので、そういう活動をしている人は、その時間も含めるべきではないかと思う。
委員長	12番 松原	
委員	13番 中村	・定数と報酬（に関する調査）をやらなければならないので、その報酬を決めるために活動量がどのくらいあるのかをまず調べないとまずいだろうということ。 一般的に言われる町長の報酬の30%などというのは結果であって、やはりある程度の下準備として、議員活動をどのくらいしているのかと。それによって議員報酬の妥当性の判断もでき、公務外の議員活動には政務活動費もこれくらいかかっているんだということを確認する意味合い。
委員	13番 中村	
		・また、町民向けに納得できる資料を用意しなくてはいけないという意味でも進めていきたい。なお、中標津町もやっている。 ・これについては、全員協議会において全議員に説明し、協力してもらう考えでいるがよろしいか。 ・どのくらいの（調査）期間を想定しているのか。 ・1年間。 ・大変だが、それでもそういうデータがあれば凄くいい。客観性が出てくると思う。期間については理解した。 もう1点、政党活動、選挙活動などは除くとしてあるが、そこに町民の意見や要望を聞く機会が混然一体としてある場合もある。これをどう分けるか

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		が難しいかと。ここはどうするか考える必要があるかと思う。 最後に意見として、移動時間について出ていたが、多い少ないに関わらず個人的な要件が絡まっていたらそれは個人の（移動）時間、純粋に（議員として）どこどこの官庁に行かなければならない、調査しなければならない、ということで行く場合は時間をカウントするという風に分けるとやりやすいかと思う。
委員	9番 小椋	・政党の関係をどうするかは決められないと思うが、私見を述べると、政党が主催で研修会を行う場合があり、その時に一般参加も募集するものは、党主催かもしれないが、一般の活動に含まれるのかなと感じている。 中村委員が言われたように、政党で町民の声を聞きましようといった時に党外の人も入っていれば、町民の意見を聞く機会としていいとする仕切りもありかと。ただし、党役員会で話を聞きましたというのを、町民の意見とするには語弊があるかと。 この仕切りを都度考えていると書けなくなる。1年間しかやらないので、しっかりした事前ルールを決めても覚えていられないなら、とりあえず書いておけばいいかと。 書いたもののうち、検討が必要であれば、正副委員長で調整してもらおうといった形がいいかと思う。想定していたらきりがないように感じるので、議員活動と思ったら書くという方法がいいかと。
委員	11番 今西	・まずは出してもらって、そこから「これは違う」ということはできる。
委員長	12番 松原	・この調査は早い方がいいと思うので、次回の全員協議会で説明したい。
		12:04 暫時休憩
		12:07 再開
副委員長	8番 田村	・自分が議員として必要だと思ったことは全部書いてもらっていい。
委員	9番 小椋	・書いていなければ拾えないので、悩んだらとりあえず書くという方法で。
委員長	12番 松原	・日常議員活動については、そのように進める。
委員	9番 小椋	・なお、この調査は事務局ではエクセルで管理予定か。
主幹	木幡	・事務局ではエクセル管理を予定しているが、議員配付のタブレットはエクセルの操作ができないので、考えなければいけないと思っていたところ。
委員	9番 小椋	・手書きがいいという人は手書きでもいいが、パソコンがある人、デジタルができる人は、事務局からデジタルで提供してもらって、出す側もエクセルで出すなどの手法を。
委員長	12番 松原	・承知した。
委員長	12番 松原	議事4 議員定数・議員報酬に係る住民アンケート調査について ・10年前は議会報告会の意見を参考にしたが、今回は秋に行われるであろう地域めぐり懇談会の中で意見を伺うような手法を検討していきたいと考えており、その内容を決めたいと思うので、意見を伺う。
委員	9番 小椋	・アンケートだが、正しいやり方としては受け手と出し手が共通認識を持っている必要があると思う。このことから、議会だよりにアンケート用紙を入れて全戸配布したとしても、議員定数や報酬についてベースとなる情報を共有できている町民はほとんどいないと思う。そこが今の議会の足りないところではあるが、広く配って回収して「何%が良いと回答した」というのは、あまり効果がないかと。なので、今、議員報酬が高いと思いますか、安いと思いますか、といったアンケートは個人的には有効ではないと思う。

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		やるとしたら、地域めぐり懇談会で、前提条件も説明した上で意見を頂くといった丁寧なやり方がいいかと個人的に思っている。
委員長	12番 松原	・向かい合いながらの意見交換はできるが、人数が集まるかどうかを心配しているところ。
委員	9番 小椋	・そこに関しては、広報・広聴常任委員会でも話しているが、地域めぐり懇談会だけではなく、例えばイベントなどに行った時に、町民の方から意見を聞き取りするといった方法もあると思う。産業祭が良いかとも思うが、今年の産業祭となるとスケジュールがタイトになるので、そこは来年でも。
		地域めぐり懇談会以外でも町民の方と対面して丁寧に回答をもらう機会は多く作れると思うので、この特別委員会で回答数の目標を立てて、地域めぐり懇談会を始めとして、それ以降に町民が集まる場に赴いて意見を伺うというやり方もあるかと考える。
委員長	12番 松原	・イベントなら書いてくれる方もいるか。
委員	9番 小椋	・聞き取りがいいと思う。世論調査のようにこちら側が質問を投げかけて口答してもらったものをチェックしていく形が有効と考える。
委員長	12番 松原	・それでは、住民アンケートは今年の地域めぐり懇談会を中心に行うということでご理解いただきたい。
		あとは、地域めぐり懇談会に関する案内を広報で行うことになると思うが、広報・広聴常任委員会の委員長としてどうか。
副委員長	8番 田村	・議会運営委員会から広報・広聴常任委員会に主管してほしいと頼まれる流れかと思うが、段取りがあるので、早めにやっておきたい。
		議員報酬と議員定数についての意見交換をするといった要請があればやぶさかではないので、早めに決定してもらい、それを広報・広聴常任委員会で行ってほしいということであれば段取りする。
		それと、聞き取り調査を産業祭などのイベントで行い、（地域めぐり懇談会の結果と）合算するのか、さらに違う場所にも行くのか、なども決めてもらいたい。
		その他、郵便アンケートの実施など、はっきり決めてもらえればその方向で進めたいと思う。
委員長	12番 松原	・地域めぐり懇談会とイベント会場での実施に関して意見を伺う。
委員	3番 高橋	・母数はどの程度想定しているのか。母数がどの程度あればアンケートとして成立するのか。
副委員長	8番 田村	・例えば、町が実施したまちづくりの関係では、2,000人のうち650人しか集まっていないようだ。
		議会基本条例のアンケートでは各議員が直接持っていき、回収したことで1,500人分集まった。ただし、回収率は今は把握していない。2、3割は必要ではないかと思うが。
委員	9番 小椋	・調べてみたら、統計上、誤差をどの程度に設定するかで有効数が変わるようだ。
		有権者数が10,000人とした場合、±10%の誤差が生じてもいいならば、100人分の回収、±5%の誤差なら385人分、±3%ならば1,000人分。
		精度を出そうとするならば、有権者の1割回収（±3%）で、今なら1,200人分程度かと。
		・地域めぐり懇談会でアンケートを取る場合、アンケート調査をメインにす

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		ると魅力がないので、あくまでも地域課題の後に時間を取って行った方がいいと考える。
委員	2番 吉田	・アンケートを集める場や回数は多い方がいい。いろんな属性の方からアンケートを取る必要がある。地域めぐり懇談会だけだと、日中働いている人の声が聞けない。
委員	9番 小椋	・町の公式ラインで給食センターがアンケートを実施していた。（町の）所管と協議して公式ラインを使って議会の情報を出してもいいとなれば、現役世代など色々な属性から集められ、有効。
委員長	12番 松原	・承知した。 調査の方法は、正副委員長と事務局で協議したい。また、地域めぐり懇談会などは、議長に依頼し、議会運営委員長から広報・広聴常任委員長に依頼するなど、手順を踏んで進めたい。
委員長	12番 松原	・アンケートの方法ももう少し検討してみたい。
委員	9番 小椋	議事5 議会モニター、議会サポーターとの意見交換の必要性について ・このことについては、時期をみて進めたいと思っているがよろしいか。 ・議会モニターに関しては、議会を見る町民の代表という認識をしているので、議会の見る側として意見を貰う。時期については、町民アンケートの後の方が町民アンケート結果を含めた意見を貰えると思う。
委員長	12番 松原	また、議会サポーターに関しては、議会の専門家として位置付けられるので、ある程度の方向性が決まった段階で、そのポイントについて意見をもらい、その後、議論が進んだ段階で再度意見をもらうといった、議会モニターとの使い分けが必要ではないか。
議長	16番 西原	・そのように進めたいと思う。
委員長	12番 松原	・主な議事については以上だが、議長から全体を通して何かあれば。
局長	干場	・各委員の発言のとおり進めていいと思う。
		・最後に事務局から何かあれば。
		・1点目、日常議員活動調について、全議員への説明は、次回6月17日予定の全員協議会で行うとの話が出ていたが、全員協議会に本件のみを議題として進めるのか、その後、議員間討議もあるので、どちらで行うのがいいのか、再度確認したい。
		2点目、中標津町議会の視察について、同事務局に確認したところ、8月は町議選があるため、7月までならば対応できるかもしれないとの回答があったが、選挙前に行くか否かについて、協議願いたい。
委員	9番 小椋	・私からも1点。 本特別委員会は、前回、他会議と抱き合わせで進めようとなったところではあるが、時間的に余裕がないこともあるので、できれば独立した日にちでやりたいと思っているがどうか。本特別委員会はじっくりと進めたい。
副委員長	8番 田村	・申し訳ないが、やはり他会議と同じ日にしてもらった方が日程調整が楽であり、ありがたい。
委員	一同	・次の協議案件の容量によって決めさせていただいてもいいか。1時間で終わる内容だと思えば他会議と同日にするが、1日かけてじっくり協議が必要な場合もあるかもしれない。できる限り各委員の都合に合わせて進めたい。
副委員長	8番 田村	・意義なし。 ・全員協議会で本特別委員会からのお願いとして実施することでもいいのでは

令和6年第2回議員定数等調査特別委員会 要点記録

			ないか。
委員	9番	小椋	・決定事項を報告するだけなので全員協議会でいいと思う。
委員長	12番	松原	・6月17日の全員協議会で私から報告する。
			なお、次回の本特別委員会は同日6月17日の午後に予定している。
委員	9番	小椋	・中標津町の視察については、選挙後でいいのでは。新人議員に立候補の理由等も聞ける。選挙後の落ち着いたタイミングでどうか。
			・意義なし。
委員		一同	・選挙後として、時期をみて調整する。
局長		干場	・資料の補足説明として、資料1の1ページC区分の中で、常任委員会数に広報・広聴を含んでいる自治体は、八雲町、別海町、森町、日高町、栗山町、斜里町、長沼町。含んでいない自治体は、倶知安町、浦河町、岩内町、上富良野町となっている。
			・中標津町のアンケート方法が資料2の20ページに載っているので、参考に確認しておいてほしい。
委員長	12番	松原	閉会挨拶
委員長	12番	松原	12:35 開会